中国人中長期滞在者の抱える日本文化適応上の問題点 －短期滞在者の自由記述調査の結果との比較－

毛 新華(MAO Xinhua)

(神戸学院大学 人文学部 人間心理学科)

キーワード：在日中国人、滞在期間、文化適応、自由記述調査

問題と目的

「円滑な対人関係の形成」が異文化適応の最重要課題(田中, 2000; Furnham & Bochner, 1986)であることを踏まえ、毛(2010)は、日本社会に増加し続ける中国人留学生を対象に、彼らの日本文化適応、とりわけ日本人との対人関係に焦点を当て、自由記述調査を通して問題点を整理した。しかし、その研究では、対象者の年齢が低く(23.52±3.31)、来日してからの経験年数も少なく(2.11±1.68年)、得られた適応上の問題点は回答者の人生経験および日本人と関わる経験年数によって制限される可能性があると考えられる。そこで本研究では、先行研究の方法を踏襲し、中国人の中長期滞在者を対象に、彼らの抱えている文化適応の問題点を整理し、経験年数の少ない短期滞在者の結果と比較を行う。

方法

調査対象者と実施期間

日本の大学院で在学する、あるいは大学・大学院修了後日本で職に就いたなど、長く日本に滞在する経験を持つ中国人47名(男性17名、女性30名;平均年齢34.36±7.46)を対象に、2013年1月から2月にかけて自由記述調査を行った。なお、調査の時期を鑑みて、回答者に「政治的問題から独立するように」と回答を依頼した。

調査内容

「人間関係に関するアンケート」と題する無記名式の質問紙を用いて調査を行った。質問紙には、調査対象者の基本属性の項目(性別、年齢、職業、来日の年数、中国の出身地域など)と自由記述項目が含まれていた。自由記述項目では、日本人との人間関係を中心内容とした以下の4つの質問を設定し、箇条書で回答を求めた。

- ①同級生や同僚とつきあう際、日本人が中国人と異なると思った点は何か
- ②同級生や同僚とつきあう中で、日本人があなたを「困らせた」点は何か
- ③あなたから見た日本人同士(同級生や同僚)のつきあいの特徴は何か
- ④日本人の同級生や同僚と友達になりたい時、どうすればいいと思うか

分析方法

4つの自由記述の質問項目に関しては、KJ法(川喜田, 1986)に基づき、本研究の目的の知らない中国人1名(在日年数13年)および中国人の大学教員1名(社会心理学専攻、在日年数16年)が協議をしながら、回答の分析・整理を行った。

結果と考察

Table1 自由記述調査から得た記述のまとめ

特徴や問題点のカテゴリー	質問①	質問②	質問③	質問④	質問①	質問②	質問③	質問④
和の維持 (中国人もするが、日本人がより表出する分野)	礼儀正しい	礼儀正しい	礼儀正しい	礼儀正しい	礼儀正しい	礼儀正しい	礼儀正しい	礼儀正しい
	上下関係重視	先輩後輩の上下関係を重視	上下関係重視	上下関係重視	上下関係重視	上下関係重視	上下関係重視	上下関係重視
	話の面白さ重視	話の面白さ重視	話の面白さ重視	話の面白さ重視	話の面白さ重視	話の面白さ重視	話の面白さ重視	話の面白さ重視
	集団意識	他人や集団との協調を重視	集団意識	集団意識	集団意識	集団意識	集団意識	集団意識
	他者への思いやり	他者への思いやり	他者への思いやり	他者への思いやり	他者への思いやり	他者への思いやり	他者への思いやり	他者への思いやり
	主張せず周りの意見に譲歩・慣用	自分の意見を言わず、他人の考えを気になる	主張せず周りの意見に譲歩・慣用	主張せず周りの意見に譲歩・慣用	主張せず周りの意見に譲歩・慣用	主張せず周りの意見に譲歩・慣用	主張せず周りの意見に譲歩・慣用	主張せず周りの意見に譲歩・慣用
	お礼と感謝	お礼とお礼の杜がタイミンの遅い	お礼と感謝	お礼と感謝	お礼と感謝	お礼と感謝	お礼と感謝	お礼と感謝
	相手の話を聴く	相手の話を聴く	相手の話を聴く	相手の話を聴く	相手の話を聴く	相手の話を聴く	相手の話を聴く	相手の話を聴く
	不満を伝達する	不満があるのに我慢する	不満を伝達する	不満を伝達する	不満を伝達する	不満を伝達する	不満を伝達する	不満を伝達する
	尊敬しない	尊敬しない	尊敬しない	尊敬しない	尊敬しない	尊敬しない	尊敬しない	尊敬しない
日本の特性 (中国人にとって日本人の対人関係に独自の存在する特徴)	公私に境界線	プライベートと仕事を分ける	公私に境界線	公私に境界線	公私に境界線	公私に境界線	公私に境界線	公私に境界線
	ルールと規範の遵守	ルールと規範を遵守する	ルールと規範の遵守	ルールと規範の遵守	ルールと規範の遵守	ルールと規範の遵守	ルールと規範の遵守	ルールと規範の遵守
	時間と約束を守る	時間と約束を守る	時間と約束を守る	時間と約束を守る	時間と約束を守る	時間と約束を守る	時間と約束を守る	時間と約束を守る
	まじめな態度	まじめで物事きちんとやる	まじめな態度	まじめな態度	まじめな態度	まじめな態度	まじめな態度	まじめな態度
	第一印象重視	第一印象重視	第一印象重視	第一印象重視	第一印象重視	第一印象重視	第一印象重視	第一印象重視
	第一印象	第一印象	第一印象	第一印象	第一印象	第一印象	第一印象	第一印象
	距離感	距離感	距離感	距離感	距離感	距離感	距離感	距離感
	関係があつさり	関係があつさりしている	関係があつさり	関係があつさり	関係があつさり	関係があつさり	関係があつさり	関係があつさり
	初対面に冷たい	日本人の友情の発展は時間がかかる	初対面に冷たい	初対面に冷たい	初対面に冷たい	初対面に冷たい	初対面に冷たい	初対面に冷たい
	外国人への距離感	外国人に対する距離感	外国人への距離感	外国人への距離感	外国人への距離感	外国人への距離感	外国人への距離感	外国人への距離感
距離感 (中国人にとって親しくなることについての障害要因)	うわべだけの付き合いが多い	うわべだけの付き合いが多い	うわべだけの付き合いが多い	うわべだけの付き合いが多い	うわべだけの付き合いが多い	うわべだけの付き合いが多い	うわべだけの付き合いが多い	うわべだけの付き合いが多い
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない
	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない	相手の話を聴かない

調査対象者の基本属性

調査対象者の中国の出身地として、北方と南方それぞれ38名と9名であった。現在の職業構成については、教育関係者11名、会社員19名、大学院生12名、無職5名であった。日本での滞在年数は3.9年～24.3年の幅があり、平均年数は11.16±4.78年であった。

自由記述調査項目の整理

対人関係の観点からの答えではないものを省き、質問ごとに同じ記述や類似した意見をまとめた。一方、質問①、②で得られた記述は中国人の認識した日本人との対人関係の特徴と問題点に関する意見であり、質問③は(中国人が備えていない)日本人同士の対人関係の特徴に関する意見であり、質問④は中国人が日本人と円滑な対人関係を結ぶための解決策の意見である。4つの質問にこのような関連性があるため、一つの特徴や問題点に対して、日本人の特徴、対応策という対応関係に基づき整理を行った。

毛(2010)で得られた①「和の維持」、②「日本の特性」、③「距離感」という3つのカテゴリーに対応して整理した(Table1)。①においては、中国人は日本人の「礼儀正しい」、「上下関係」、「話が婉曲」、「他者や周りとの協調」など、互いの「和」を維持する行動に注目している。これらの行動は中国人もするが、日本人がより表出する分野だと考えられる。②については、「公私に境界線」、「ルールや時間などの遵守」、「まじめな態度」など、中国人にとって日本の対人関係に独自に存在する特徴を注目している。③については、「割り勘」、「関係があつさり」、「友情の発展に時間がかかる」など中国人にとって対人関係の親密化に阻害となる要因が注目されている。

本研究でまとめたカテゴリーは毛(2010)で得たものとすべて重複しているため、両者の統合が可能だと考えられる。一方、両者の比較から、経験年数の多さに伴う回答が多く見られた。例えば、日本人の建前と本音の使い分け行動に対して、短期滞在者はネガティブに認識するのに対して、中長期滞在者はより中立的に考えている。また、対人的親密さについては、本研究の中長期滞在者の方は「時間が必要」や「距離が大事」などより本質的な部分を着目している。

今後、適応の問題点について、中国人からの意見だけでなく、日本人の意見との比較および両者の統合を視野に入れて検討する必要があると考えられる。

本研究は、平成23年度～25年度学術研究助成基金助成金若手研究(B)(課題番号23730580)および神戸学院大学人文学部平成24年度研究助成金の助成を受けた。